



ISSN 1344-7572

研究報告集録 第130-05

# 「目標に準拠した授業」に関する 調査研究

平成27年3月  
大阪府教育センター

## 「目標に準拠した授業」に関する調査・研究

主担当室担当室 : 学力向上推進室

連 携 室 : カリキュラム研究室、支援教育研究室、理科教育研究室

研 究 区 分 : 課題研究

研 究 期 間 : 平成 26 年度 (1 年間)

### 1. 教育課程上の必要性

文部科学省「第 2 期教育振興基本計画（平成 25 年 6 月閣議決定）」では、一番に「新学習指導要領を踏まえた言語活動の充実」を謳い、学習指導要領【総則第 4 の 2】では、「各教科等の指導に当たっては、児童（生徒）が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよう工夫すること」と記している。それらを根拠とし、その具現化を目的とする授業改善の在り様を研究する。

### 2. 研究の内容

#### (1) 授業改善校内研究ワーキング

##### ①各地区ワーキングにおける情報収集および発信

「校内研究の活性化と自立化」「校内研究担当者の育成」を目的として、地区別に校内研究ワーキングを実施し、大阪府教育センターからの情報提供、参加校どうしでの情報交換を行いながら、目標に準拠した学習評価をいかした授業改善の推進を行った。

◇ワーキング参加者 273 校（小 159 校、中 114 校） 279 名

（各地区ワーキング 2 回、各地区中間報告会 1 回、内容別ワーキング 1 回）

- ・「目標に準拠した評価をいかした授業」「校内研究の充実に向けて」について発信
- ・校内研究ツールパック CD を配付

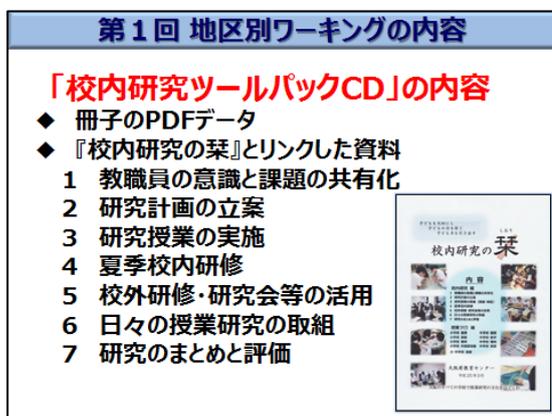


図 1 : 校内研究ツールパック CD の内容

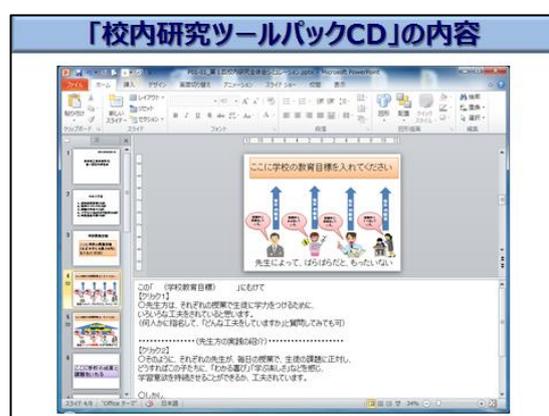


図 2 : 校内研究ツールパック CD にある校内研究で活用できるプレゼンデータの内容

<アンケート結果> 「伝達または実践をした」・・・99%、「資料が活用できる」・・・86%  
 「学習評価をいかした授業づくりについて学べたか」・・・66%

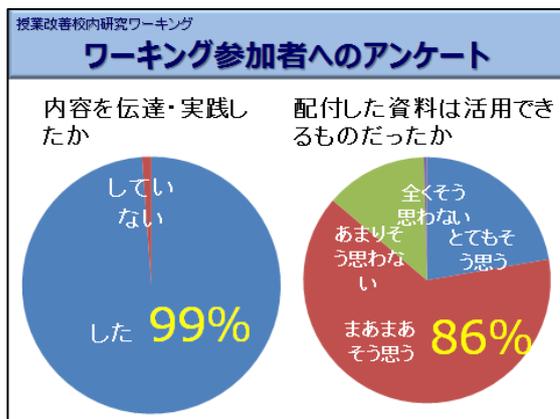


図3：ワーキング参加者へのアンケート

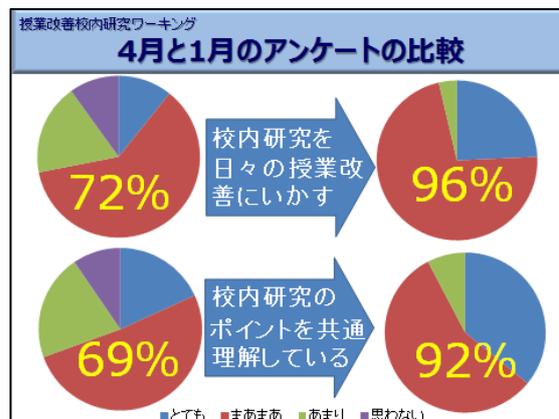


図4：ワーキング参加者へのアンケート（4月と1月の比較）

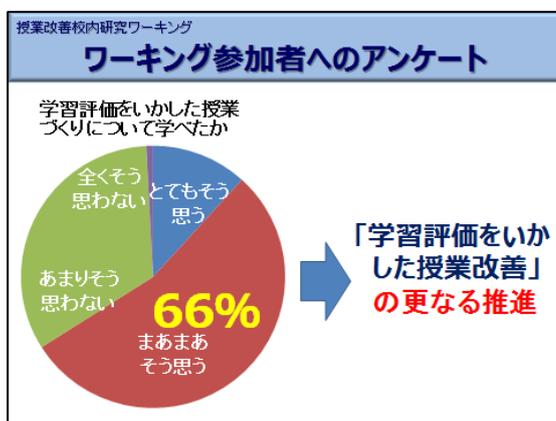


図5：ワーキング参加者へのアンケート「学習評価をいかした授業改善について学べたか」

## ②ワーキング参加校への学校支援等

◇171校に対して600回実施

- ・大阪の授業スタンダードに基づいた授業の在り方を指導
- ・「目標に準拠した評価をいかした授業」について具体的な授業場面で提案

## ③ワーキング・スタッフ会議

◇ワーキング・スタッフ41市町村 48名

(全体スタッフ会議2回、各地区スタッフ会議2回(7地区))

- ・ワーキングの企画・運営
- ・市町村の取組の情報交換
- ・学校支援における指導助言についての学習会(指導案検討・授業ビデオを通して等)を行い、ワーキングの運営及び、指導主事の指導力の向上を図った。

<アンケート結果> 「スタッフ会議は、学校支援を行う上で役立ったか」・・・100%

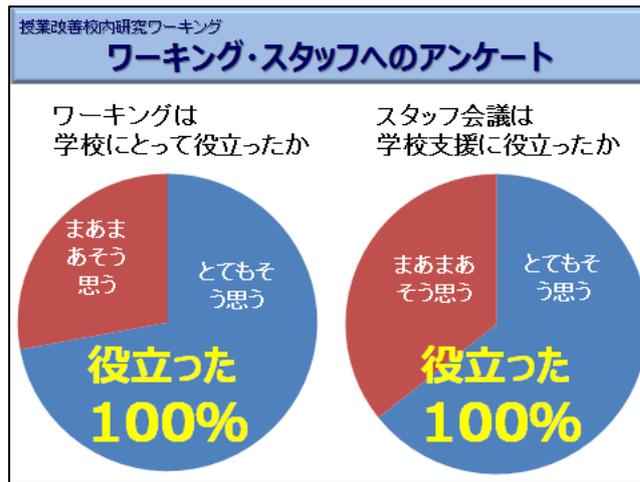


図6：ワーキング・スタッフへのアンケート

## (2) 研究フォーラム

授業改善校内研究ワーキングの成果を大阪府教育センター研究フォーラムのA-1分科会で発信した。ワーキング参加校から子どもの学びを見取り、それを指導にいかす取組について発信した。このテーマは市町村の教員の関心も高く大ホールがいっぱいになる467名の参加者があった。新坊教授からは講演の中で、「授業改善には学習評価の改善が不可欠。」と、今後大阪が進むべき授業改善の方向性についてご示唆頂いた。

テーマ

「授業をかえる 学びが見える-授業改善！子どものよりよい変容をめざして-

- ・守口市立三郷小学校の取組・・・子どもの学びを見取るノート指導
- ・羽曳野市立誉田中学校の取組・・・単元の評価を考えた授業づくり
- ・新坊教授の講演・・・「授業改善がめざす先」

<アンケートより> 「分科会の内容について」 肯定的な評価・・・99%

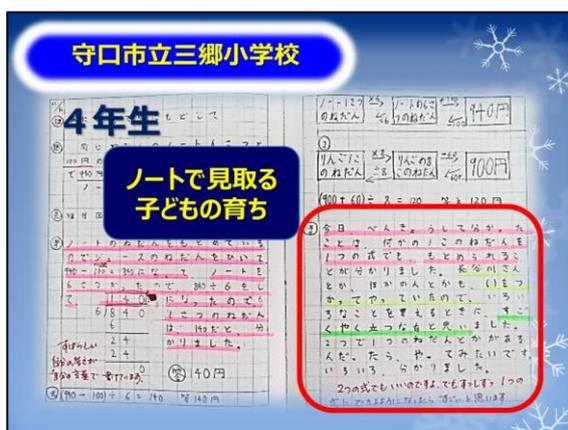


図7：守口市立三郷小学校が提示した子どもの学びを見取るノート指導に関するスライド

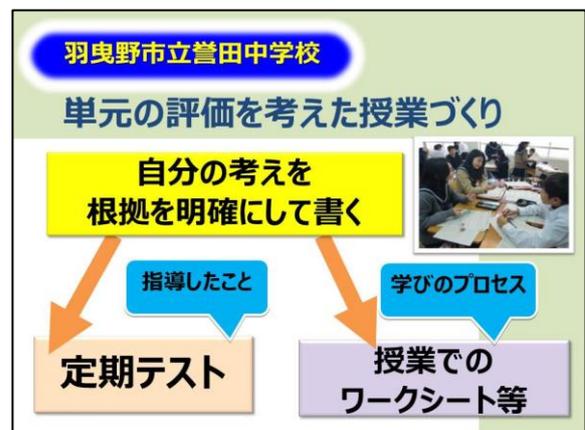


図8：羽曳野市立誉田中学校が提示した単元の評価を考えた授業づくりに関するスライド

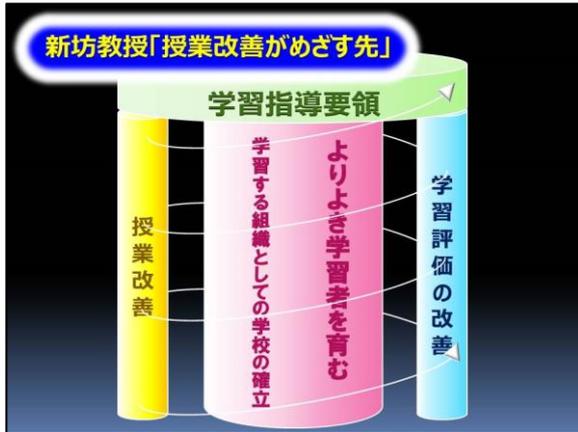


図9：新坊教授が提示した授業改善と学習評価の改善の関連を示したスライド

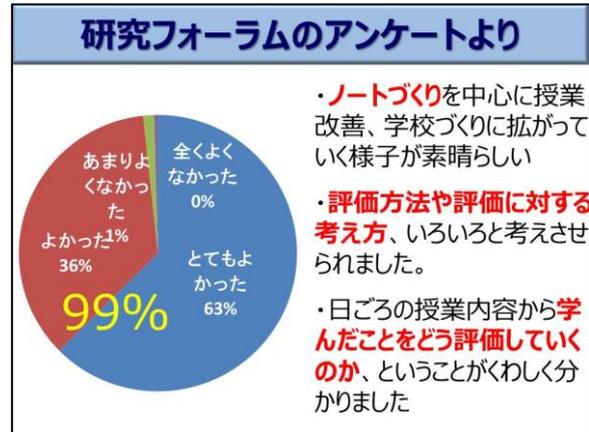


図10：研究フォーラムのアンケート結果

### (3) 全国学力・学習状況調査の分析

#### ① 調査問題を活用した授業改善のポイントを発信

目標に準拠した授業に向けて調査問題の活用した授業改善のポイントについてまとめ、市町村学方向上担当指導主事会での発信した。また、それらのスライド資料をワーキング担当指導主事への提供し、市町村でも活用してもらえるようにした。

#### ② 他府県と比較した大阪府の課題の分析

めあて・振り返り・言語活動などの実施状況などについて、全国や他府県と比較した大阪府の課題を分析し、授業改善のポイントとして発信した。

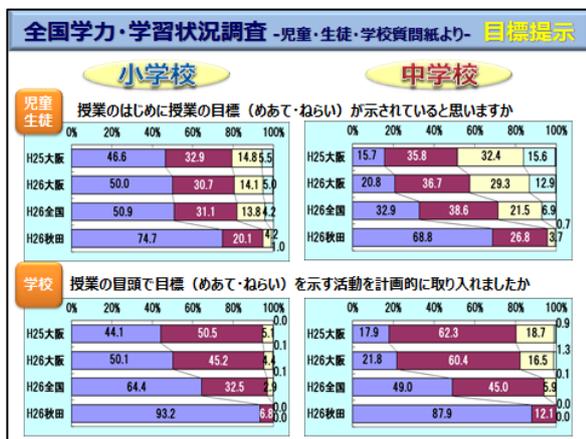


図11：「授業のはじめに、授業の目標を提示している」に関する児童生徒質問紙と学校質問紙の結果について大阪府と全国を比較したグラフ

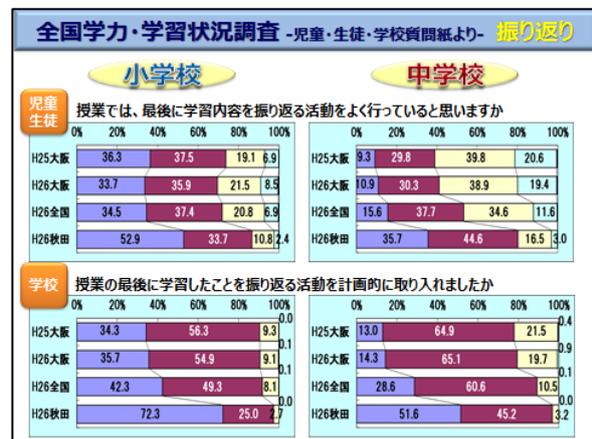


図12：「授業の最後に学習の振り返りを行っている」に関する児童生徒質問紙と学校質問紙の結果について大阪府と全国を比較したグラフ

### (4) 「学習指導ツールの単元別テストを活用した授業サンプル集」の作成・発信

大阪府教育委員会が web 配信している学習指導ツールの単元別テストは、学習指導要領で示されている思考力・判断力・表現力を評価するための問題である。これを活用した「学習指導ツールの単元別テストを活用した授業サンプル集」を作成し、府内すべての小中学校に配付した。サンプル集を通じて単元別テストを活用した「目標に準拠した評価をいかした授業」の展開例を提示し授業

改善の方向性を示した。いろいろな研修の場で紹介しながら目標に準拠した授業が展開されるよう支援している。



図 13：単元別テストを活用した授業サンプル集

### (5) 授業改善フォーラム

本年度の授業改善校内研究ワーキングのまとめとして、「授業改善フォーラム ―子どもの姿で語る校内研究―」を実施し、3つの参加校から、学校の教職員が共通理解して行った校内研究の取組とそれを通じた子どもの変容について実践発表していただいた。また、参加者の各校の取組を交流した後、次年度の取組の参考となるように、研究フォーラムで示された授業改善の進むべき方向性について再度提案した。



図 14：授業改善フォーラムの内容

## 3. 今後の予定

### (1) 「校内研究のまとめ」の作成

- ・今年度の校内研究の取組をまとめ、参加校へCDにして配付する。
- ・代表的なものを web 配信し、広く府内に発信する。

### (2) 校内研究ツールパックCD

- ・本年度配付したものに、本年度使用したデータなどを追加してバージョンアップする。

## 4. 研究の活用計画

### (1) 校内研究のまとめ及び校内研究ツールパックCD

- ・次年度ワーキング・スタッフ及びワーキング参加校に配付し、活用を促す。

### (2) 次年度の授業改善校内研究ワーキング

- ・学習評価をいかした授業改善を推進するワーキングを実施
- ・「学習評価をいかした授業改善」に関する実践協力校を指定し研究・開発を行う。  
⇒小中学校課が実施する「アクティブ・ラーニング実践研究」と連携しながら進める。

## 5. 最終成果物の予定

- ・「学習指導ツールの単元別テストを活用した授業サンプル集」(配付・配信済み)
- ・各校の校内研究のまとめ(CDにしてワーキング参加校へ配付、一部はweb配信)
- ・校内研究ツールパックCD(次年度ワーキング・スタッフ、ワーキング参加校へ配付)

## 6. まとめ

今年度の取組を通して、府内の多くの小中学校が授業改善をすすめることができた。次年度以降その質の充実が求められる。そのためには、学習評価をいかした授業改善が不可欠である。次年度の授業改善校内研究ワーキングは、「学習評価をいかした授業改善」というサブタイトルをかかげ、ワーキングを実施する。

また、小中学校課が指定する「アクティブ・ラーニング実践研究」実践協力校を、『学習評価をいかした授業改善』に関する実践協力校」とし、府センターが重点的にかかわりながら、研究開発を行う。

これらの取組を通して、府内の小中学校の授業改善の取組がより深まるように支援していきたい。